

# 泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報21

2003・3

泉大津市教育委員会



# 泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報21

2003・3

泉大津市教育委員会

## 例 言

1. 本調査概報は、泉大津市教育委員会が、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地において、開発行為に先立って実施した発掘調査報告である。
2. 本調査は、国庫補助事業（補助対象経費1,000,000円、国庫補助率50%、市負担率50%）として泉大津市が計画・実施したものである。
3. 本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者	泉大津市教育委員会教育長	楠畑 正史
事務局	泉大津市教育委員会事務局	生涯学習課
担当者	坂口 昌男	
	虎間 麻実	
	村田 文幸	
調査補助員	野田 由恵	

4. 本事業は、平成14年度事業として、平成14年4月1日に着手して、平成15年3月31日に完了した。
5. 本書の執筆、編集は、虎間が行った。
6. 本調査にあたり、酒井裕介（株式会社 総合文化企画）、松川由次（株式会社 総合文化企画）の協力を得た。

# 目 次

第1章	泉大津市と埋蔵文化財調査の状況	1
1.	泉大津市の位置と環境	1
2.	埋蔵文化財調査の現状	3
第2章	発掘調査成果	5
1.	池上曾根遺跡	5
2.	豊中遺跡	7
3.	東雲遺跡	13
4.	虫取遺跡	18
5.	大園遺跡	22
6.	板原遺跡	24
	発掘調査抄録	26
挿 表		
表1	発掘調査一覧表	4
挿 図		
第1図	泉大津市の位置	1
第2図	市内遠望写真(左;池上曾根遺跡方面、右;豊中遺跡方面)	1
第3図	遺跡分布図	2
第4図	遺跡別工事内容内訳	3
第5図	池上曾根遺跡 調査区位置図(1:10,000)	5
第6図	2002-06地点トレンチ写真	6
第7図	2002-06地点北壁断面写真	6
第8図	2002-06地点北壁断面図	6
第9図	豊中遺跡 調査区位置図(1:10,000)	7
第10図	2002-05地点トレンチ1写真	8
第11図	2002-05地点トレンチ2写真	8
第12図	2002-05地点トレンチ断面図(上;トレンチ1、下;トレンチ2)	9
第13図	2002-05地点トレンチ写真(左;トレンチ1、右;トレンチ2)	10
第14図	2002-05地点出土遺物実測図	10
第15図	2002-05地点出土遺物写真	10
第16図	2002-07地点トレンチ写真	11
第17図	2002-07地点南壁断面写真	11
第18図	2002-07地点南壁断面図	11
第19図	2002-07地点出土遺物実測図	11
第20図	2002-07地点出土遺物写真	11
第21図	2002-10地点トレンチ写真	12
第22図	2002-10地点南壁断面写真	12

第23図	2002-10地点南壁断面図	12
第24図	東雲遺跡 調査区位置図(1:10,000)	13
第25図	2002-04地点トレンチ写真	14
第26図	2002-04地点北壁断面写真	14
第27図	2002-04地点トレンチ断面図	14
第28図	2002-11地点トレンチ写真 (左; トレンチ1、右; トレンチ)	16
第29図	2002-11地点トレンチ断面図 (左; トレンチ1南壁、右; トレンチ2北壁)	16
第30図	2002-12地点トレンチ南壁断面図	16
第31図	2002-12地点トレンチ写真	17
第32図	2002-12地点平面写真	17
第33図	虫取遺跡 調査区位置図(1:10,000)	18
第34図	2002-02地点トレンチ写真	19
第35図	2002-02地点平面図	19
第36図	2002-02地点トレンチ断面図	19
第37図	2002-02地点出土遺物実測図	19
第38図	2002-02地点出土遺物写真	19
第39図	2002-03地点断面写真 (左; トレンチ1西壁、右; トレンチ2東壁)	20
第40図	2002-03地点断面図 (上; トレンチ1、下; トレンチ2)	21
第41図	大園遺跡 調査区位置図(1:10,000)	22
第42図	2002-08地点トレンチ断面写真	23
第43図	2002-08地点トレンチ断面図	23
第44図	板原遺跡 調査区位置図(1:10,000)	24
第45図	2002-09地点トレンチ写真 (上; トレンチ1、下; トレンチ2)	25
第46図	2002-09地点トレンチ断面図 (上; トレンチ1、下; トレンチ2)	25

# 第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

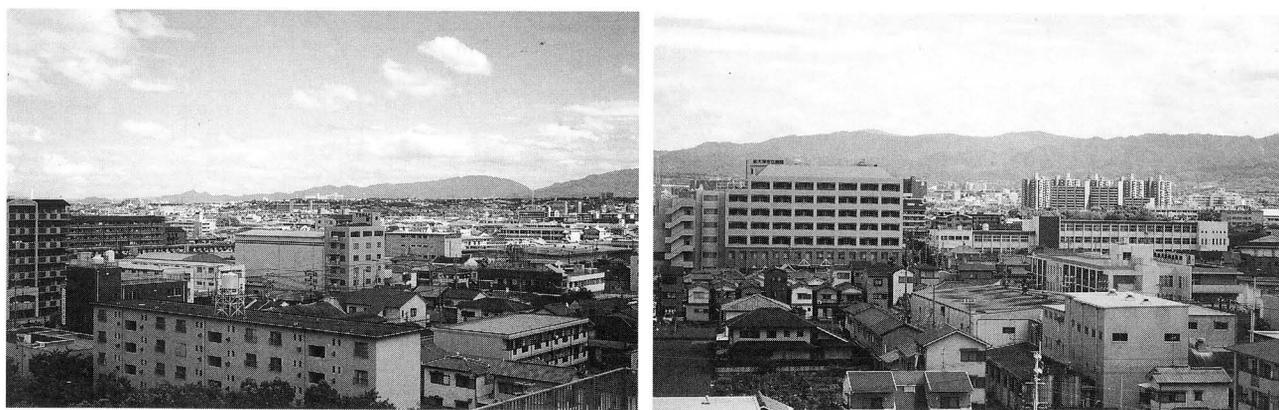
## 1. 泉大津市の位置と環境

泉大津市は大阪府南部の泉州地域に属する。泉州地域東部には、大阪湾に沿って東西に和泉山脈が連なる。その山脈を源として幾多の河川が北に走行し、大阪湾に注ぐ。これらの河川はそれぞれ開析谷、河岸段丘を形成し、その両側には丘陵地形が南北方向に発達している。その丘陵より北側は平坦で狭小な沖積地が形成されているが、泉大津市はこの沖積地上に立地しており、市域の標高は20m未満である。

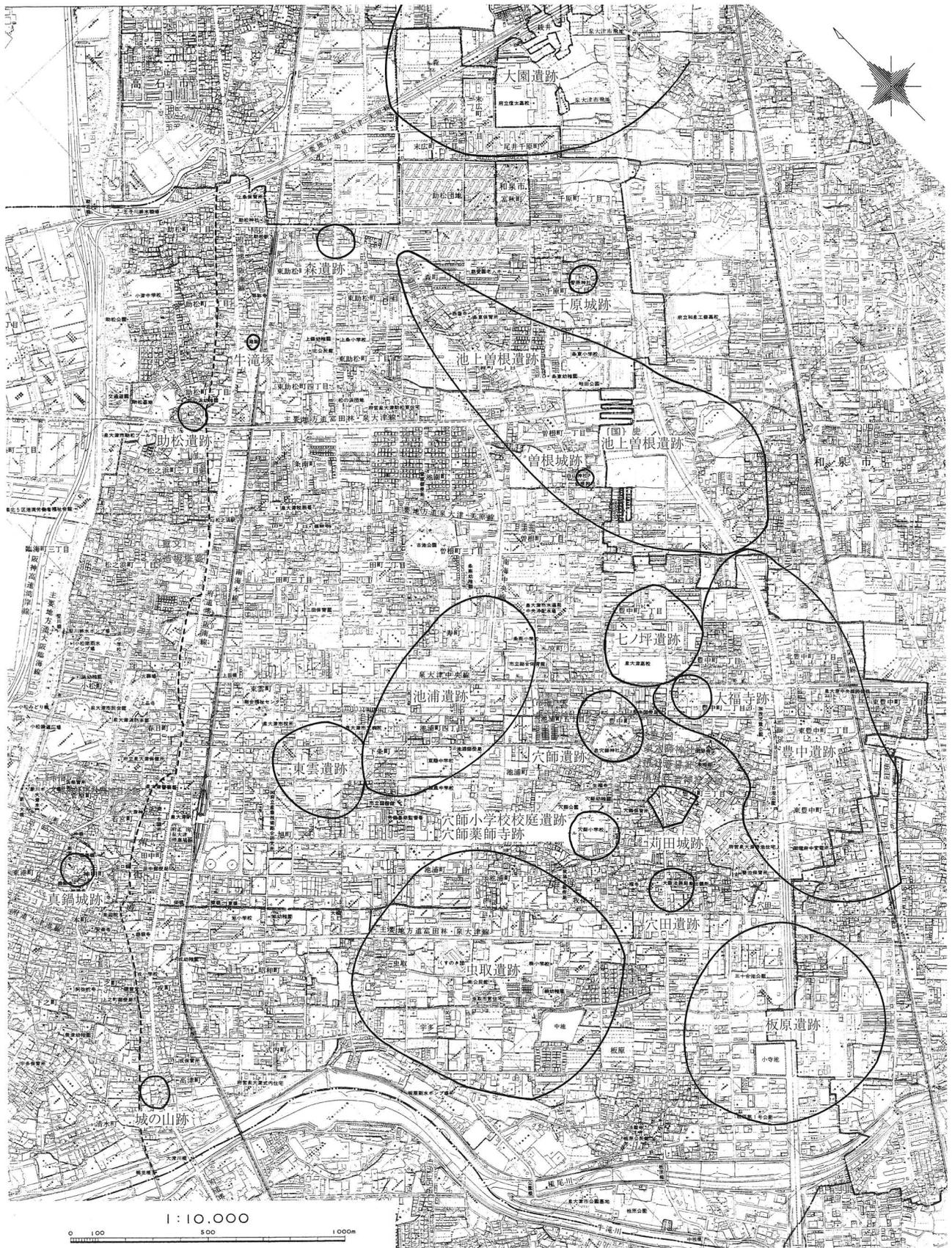
泉大津市は面積12.32km<sup>2</sup>、人口77,811人である（平成14年12月1日現在）。昭和40年頃から開発が進み、現在は市域全域が市街地化されている。市域は、大阪湾に面した臨海部の工業地域、南海本線から阪和線にかけての住居地域と商工業地域が混在する地域、国道26号線周辺の商業地域に大きく分けることができる。住居地域には、助松の紀州街道沿いと穴師神社周辺にそれぞれ風致地区を設けている。近年、臨海部での高層住宅や繊維工場跡地での分譲住宅の建設が進み、市の景観の変化は著しい。いわゆるバブル景気崩壊以後、大規模開発は下火になっているものの、古い民家の取り壊しや木造個人住宅の鉄筋造への立替えなどが進み、町並みにも大きな変化が見られる。



第1図 泉大津市の位置



第2図 市内遠望写真（左；池上曾根遺跡方面、右；豊中遺跡方面）



第3図 遺跡分布図

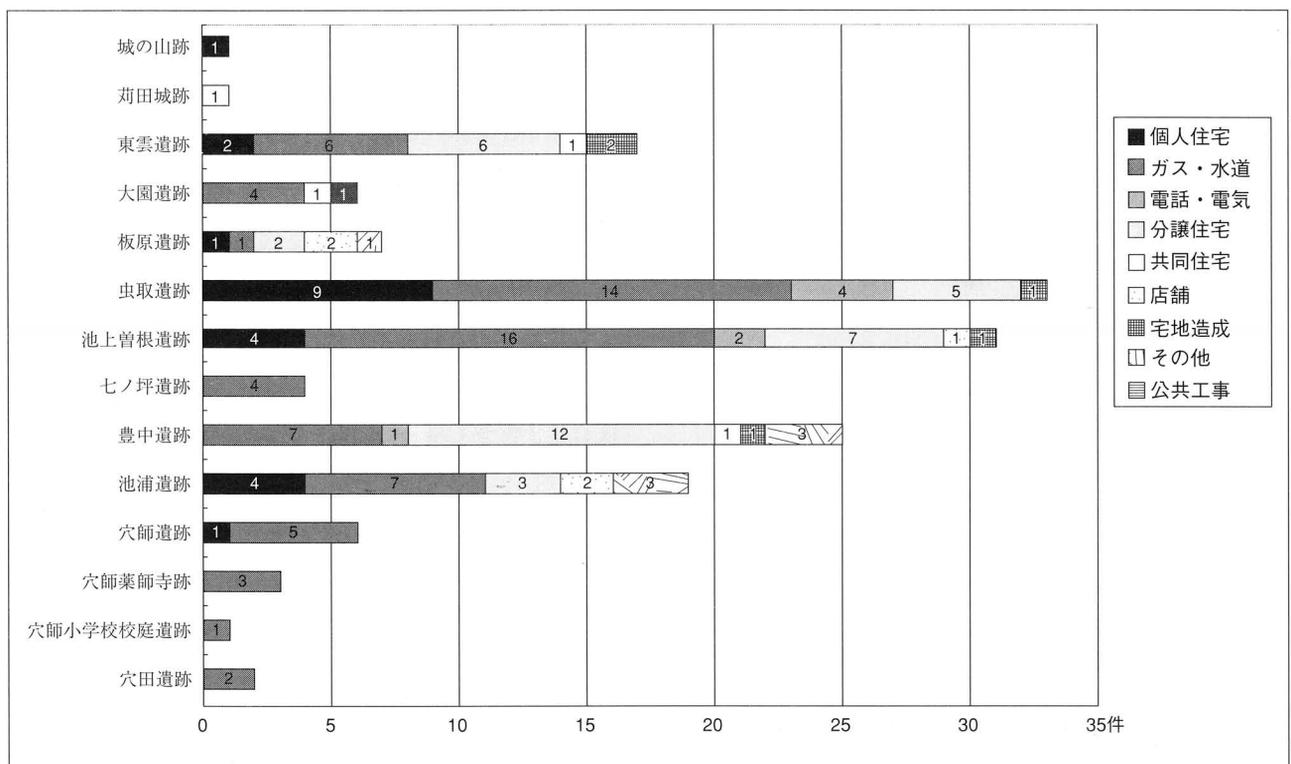
## 2. 埋蔵文化財調査の現状

本概報は、平成14年1月～12月までに発掘調査を実施したものを掲載対象とする。当該期間内の埋蔵文化財届出件数は157件である。発掘調査件数は平成11年度11件、平成12年度6件、平成13年度12件と、ここ数年間は非常に少ない。

第4図は、遺跡別工事件数の内訳である。遺跡別に届出件数をみると、虫取遺跡、池上曾根遺跡、豊中遺跡の順が多い。

総届出件数に占める工事内容は、ガス・水道・電気・電話を含む個人住宅関連工事が約7割を占めている。次いで分譲住宅・店舗・共同住宅の順に件数が多かった。

本概報で報告する調査は、豊中遺跡3件、池上曾根遺跡1件、池浦遺跡1件、板原遺跡1件、虫取遺跡2件、東雲遺跡3件、大園遺跡1件の合計12件である。いずれも建物基礎掘削深度が遺構面を損壊する可能性があるため、着工前の確認調査を行ったものである。但し、本発掘調査に至ったものはない。



第4図 遺跡別工事内容内訳

表1 発掘調査一覧表

○池上曾根遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m <sup>2</sup> )
2002-06	森町1丁目99-1の一部、99-2	分譲住宅建設に伴う位置指定道路	1,037.98

○豊中遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m <sup>2</sup> )
2002-05	豊中町2丁目408-1の一部、407-3、411-2、412-3、里道敷	木造2階建分譲住宅5戸	796.62
2002-07	東豊中町2丁目7-26	鉄筋コンクリート造3階建個人住宅	173.19
2002-10	豊中町3丁目4-8	鉄筋コンクリート造2階建授産施設	895.65

○東雲遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m <sup>2</sup> )
2002-04	東雲町77-1、77-3、里道、水路	分譲住宅建設に先立つ宅地造成	1,328.89
2002-11	東雲町89-2、89-4	分譲住宅建設に先立つ宅地造成	1,156.85
2002-12	東雲町73-1の一部	鉄骨造2階建個人住宅	373.38

○虫取遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m <sup>2</sup> )
2002-02	虫取町1丁目88-2、101-1	木造2階建個人住宅	1,260.27
2002-03	池浦町2丁目492-2	鉄骨造2階建工場	959.91

○大園遺跡

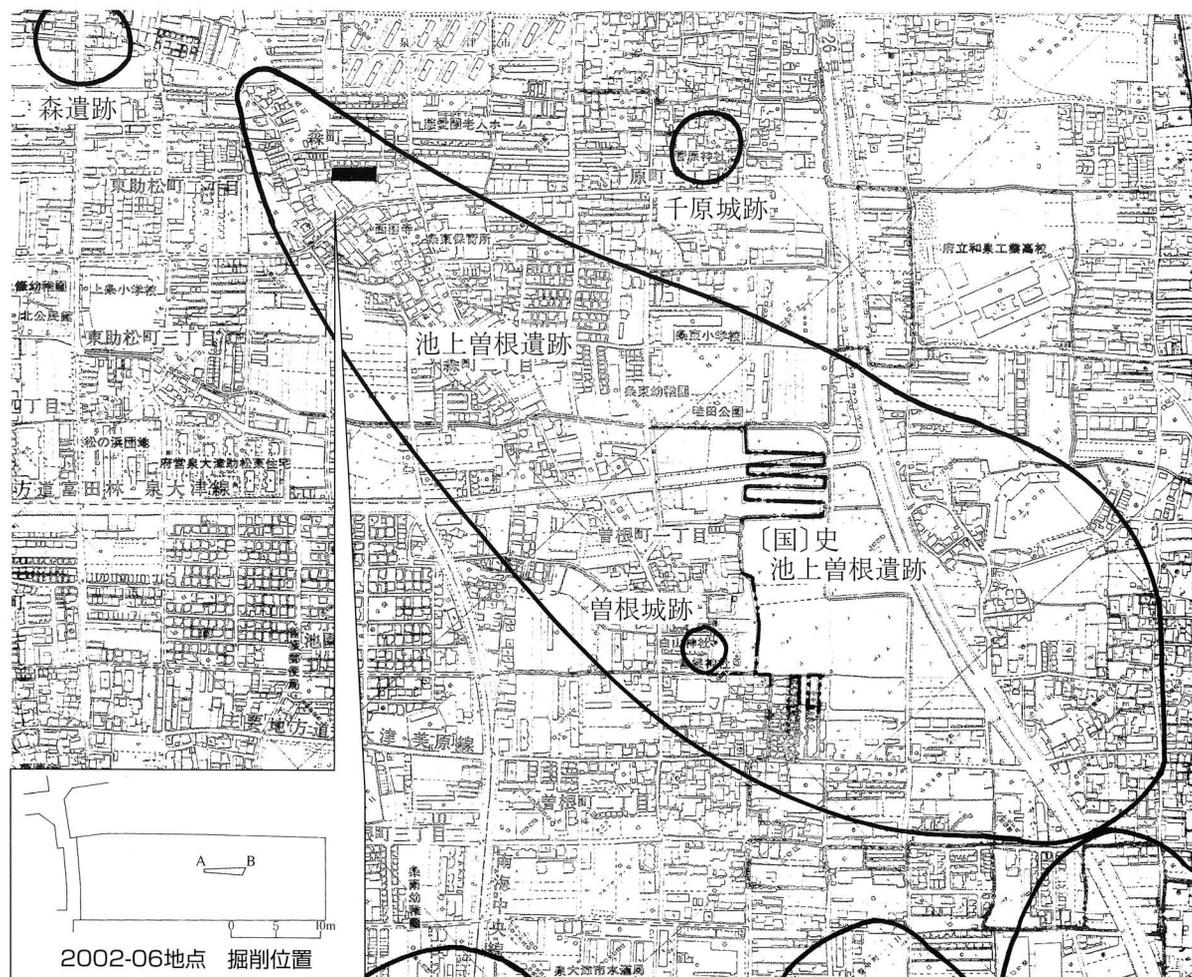
調査番号	所在地	用途	届出面積(m <sup>2</sup> )
2002-08	末広町1丁目326、328-2の一部 和泉市富秋町223の一部、 葛の葉町421の一部	鉄筋コンクリート造11階建共同住宅	4,263.92

○板原遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m <sup>2</sup> )
2002-09	穴田78-1、宮184-1	鉄骨造2階建貸営業所	2,204.20

## 第2章 発掘調査成果

### 1. 池上曾根遺跡



第5図 池上曾根遺跡 調査区位置図(1:10,000)

池上曾根遺跡は本市曾根町と和泉市池上町に広がる弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡で、遺跡範囲約50ヘクタールのうち、約11.5ヘクタールが史跡に指定されている。本市域における遺跡の範囲は、曾根神社以西から森町、千原町の一部を含み、南北に広がりを持つ。史跡指定地以外の地域は、旧村落と昭和40年代以降の開発部分が混在しており、小区画の開発が多く大規模な調査は行われていない。そのため、史跡地中心部の構造に比べ、周辺部は不明な点が多い。今年度は分譲住宅建設に伴う位置指定道路工事に先立ち、1件の確認調査を実施した。

## 2002-06地点（森町1丁目99-1の一部、99-2）

当該地は、遺跡の北端に位置する。畑であったが、分譲住宅建設が予定されたため、工事に先立って調査を実施した。位置指定道路部分にあたる敷地中央に幅0.7~1.2m、長さ8.4mのトレンチを設定し、重機で掘削を行った。現地表土は耕作土で、以下、床土の黄灰色土及び茶灰色土、黄灰色シルト、茶灰色シルト、灰色粗砂、茶灰色粘質土まではほぼ水平の堆積が認められる。灰色粗砂中に茶灰色粘質土と灰色細砂が部分的に見られる。茶灰色粘質土は非常に粘性が強く、湧水がある。

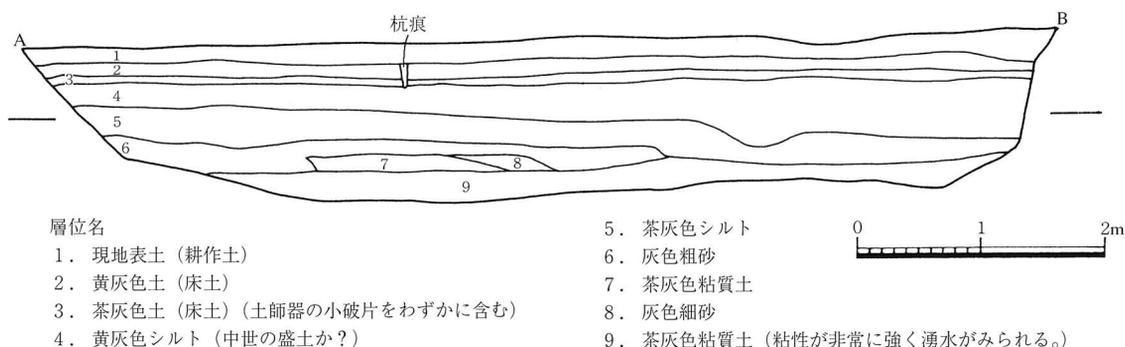
3層の床土に土師器の破片がわずかに見られるが、以下の土層に、遺物は全く認められない。4層は、東に向かって厚みを増す層で、近世以前の盛土と思われる。遺構の検出はなかった。写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。



第6図 2002-06 地点トレンチ写真

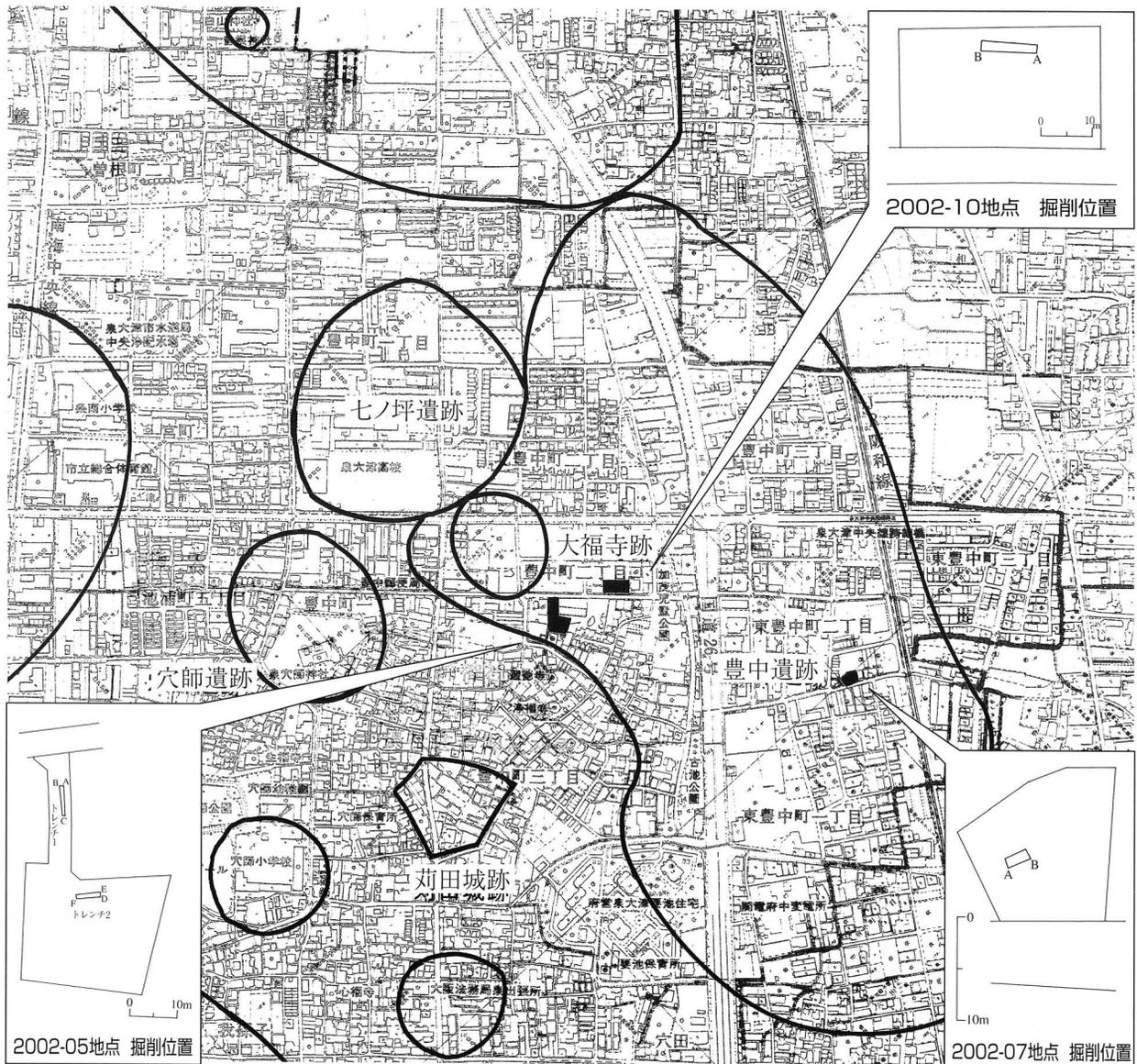


第7図 2002-06 地点北壁断面写真



第8図 2002-06 地点 北壁断面図

## 2. 豊中遺跡



第9図 豊中遺跡 調査区位置図(1:10,000)

豊中遺跡は、国道26号線を長軸に、市の東端に広がる遺跡で、面積は約49ヘクタールである。現在までに、最も継続して調査が行われている遺跡で、その成果から国道付近は古墳時代の、泉大津中央線付近は平安～中世にかけての集落がみつまっている。中世の遺構として、南北方向に流れる水脈上に井戸が多数見られるのも当遺跡の特徴である。今年度は、分譲住宅、個人住宅、授産施設の建設に先立ち3件の調査を実施した。

## 2002-05地点（豊中町2丁目408-1の一部、407-3、411-2、412-3、里道敷）

当該地は、遺跡の西端に位置する。分譲住宅建設が予定されたため、工事に先立ち調査を実施した。

敷地内の位置指定道路建設場所に、2カ所のトレンチを設定。北をトレンチ1、南をトレンチ2とした。トレンチ1は、幅0.5～1.0m、長さ6.5m、深さ0.9m、トレンチ2は、幅1.0～1.2m、長さ5.4m、深さ1.0mまでそれぞれ重機で、掘削を行った。



第10図 2002-05地点トレンチ1写真



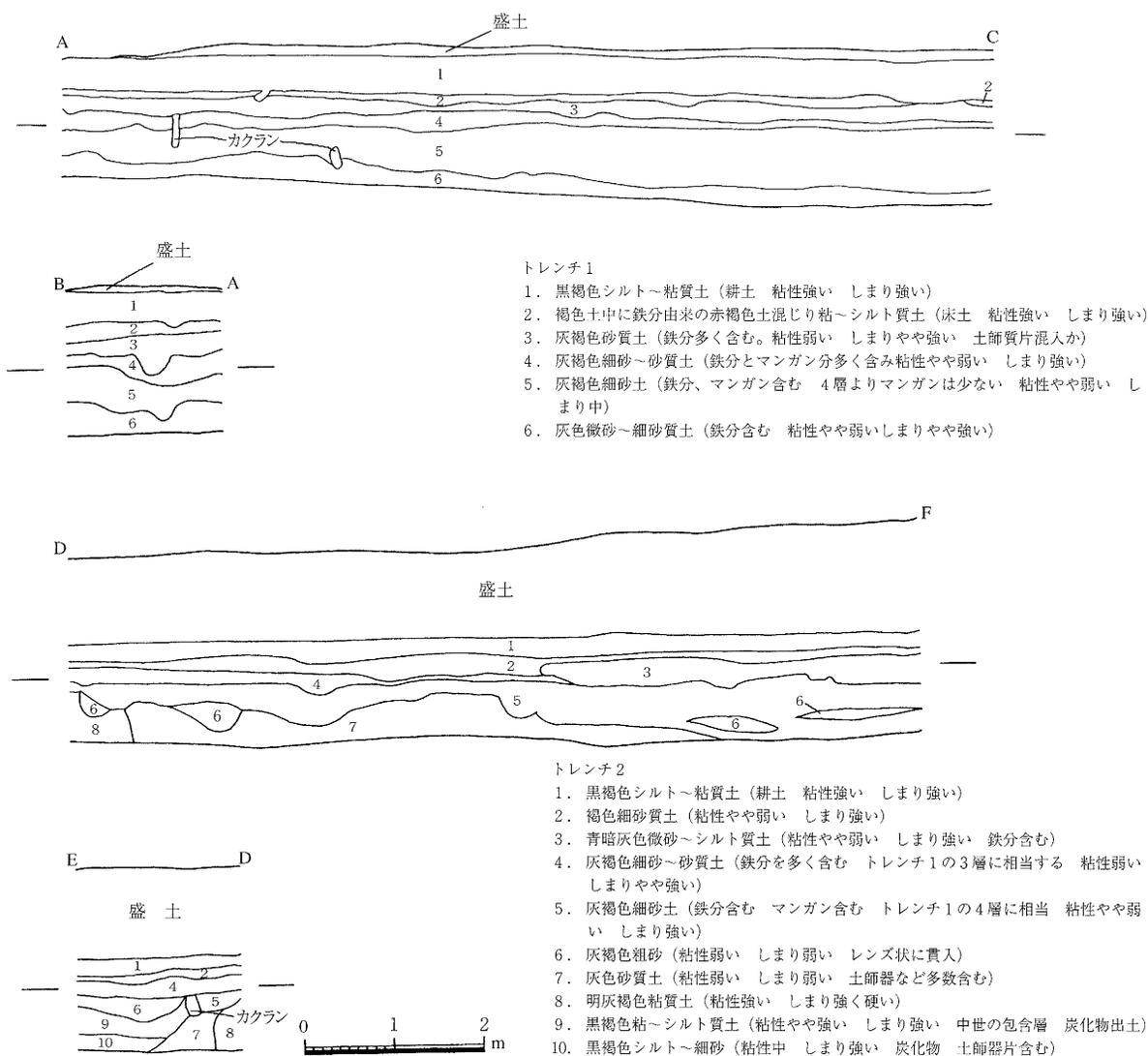
第11図 2002-05地点トレンチ2写真

トレンチ1の基本層序は、現地表土の盛土以下、1. 耕土（黒褐色シルト～粘質土）、2. 床土、3. 灰褐色砂質土、4. 灰褐色細砂～砂質土、5. 灰褐色細砂土、6. 灰色微砂～細砂質土である。1層、2層ともに粘性、しまりが強い。3層は鉄分が多く含まれ粘性が弱く、しまりはやや強い。土師器片が検出されたが、混入かと思われる。4層は鉄分とマンガン分を多く含み、マンガンは斑状に入ることもある。5層も鉄分、マンガン分を含むが、4層よりマンガン分は少ない。粘性はやや弱い。6層は鉄分を含み、粘性がやや弱く、しまりはやや強い。4～6層の成立は同時期で、水のあまり激しくない流れによって形成された層と思われる。

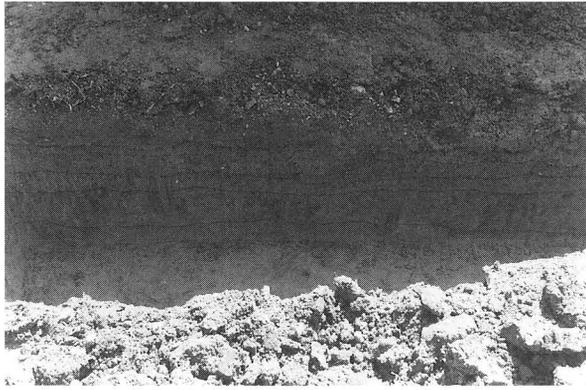
トレンチ2の基本層序は、現地表土の盛土以下、1. 黒褐色シルト～粘質土、2. 褐色細砂質土、3. 青暗灰色微砂～シルト、4. 灰褐色細砂～砂質土、5. 灰褐色細砂、6. 灰褐色粗砂、7. 灰色砂質土、8. 明灰褐色粘質土、9. 黒褐色粘質土～シルト、10. 黒褐色シルト～細砂に至る。1層は、粘性、しまりともに強く、トレンチ1の1層に相当する耕土。2層は粘性がやや弱く、しまりが強い。3層は粘性やや弱く、しまり強い。鉄分含む。4層は鉄分を多く含み、粘性弱く、しまりやや強い。トレンチ1の3層相当。5層は、鉄分、マンガン分を含み、粘性やや弱く、しまり強い。トレンチ1の4層相当。6層は粘性、しまりともに弱く、レンズ状に貫入する。7層は粘性、しまりともに弱く、川底であったと思われる。土師器など多数の土器片を検出した。8

層は、粘性、しまりともに強く硬い層で、流路の肩と思われる。9層は、粘性やや強く、しまりも強い。中世の遺物包含層で、炭化物も含まれる。10層はしまり強く、炭化物、土器片を含む。9層と同様に中世の包含層である。

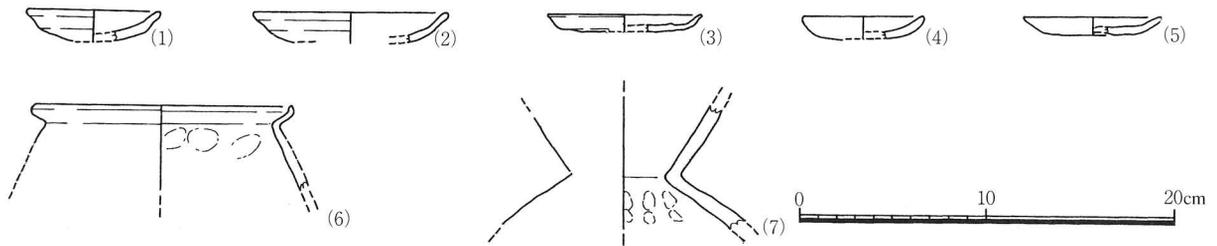
出土遺物は、120点を数えるが、図示できるのは7点のみである。トレンチ1からは1点のみで、残りはすべてトレンチ2からの出土である。包含層の9、10層からの出土が多い。(1)～(4)は土師器皿で、(5)は瓦器皿である。9、10層からの出土。(6)、(7)は土師器で流路の7層からの出土。



第12図 2002-05地点 トレンチ断面図 (上; トレンチ1、下; トレンチ2)

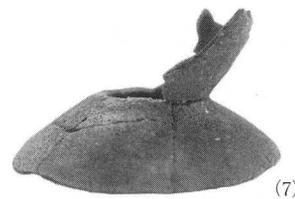
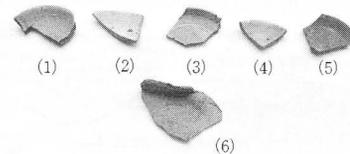


第13図 2002-05地点 トレンチ写真 (左: トレンチ1、右: トレンチ2)



第14図 2002-05地点 出土遺物実測図

(1)・(3)～(5)は、復元口径6.6～8.2cm、器高1～1.5cm。(2)は、復元口径10.2cm、器高1.6cmを測る。(6)は甕の口縁部。口縁部から頸部にかけての屈曲が激しく、口縁端部をつまみ上げる。端部外面に面をもたない。外面は、摩滅が激しく調整は不明である。内面は指頭圧痕の後、ナデがみられる。復元口径は、13.8cm。(7)は直口壺。肩部が張り、口縁は内湾気味に立ち上がる。内外面ともに摩滅が激しい。頸部の復元径は約6.6cm。(6)、(7)ともに庄内併行期であろう。



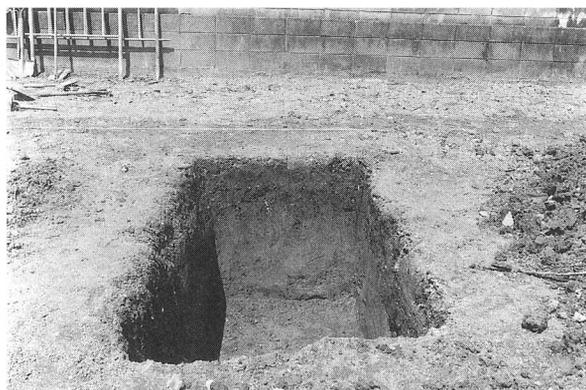
第15図 2002-05地点 出土遺物写真

中世の包含層は、現地表面から約70cm下、耕土の約20cm下で見られるが、トレンチ2のみで、約15m離れたトレンチ1の包含層は不明である。また、7層は流路で8層はその肩部であるが、その規模や範囲は調査区外に伸びるため不明である。出土遺物よりその時期は3世紀ごろとしたい。写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。

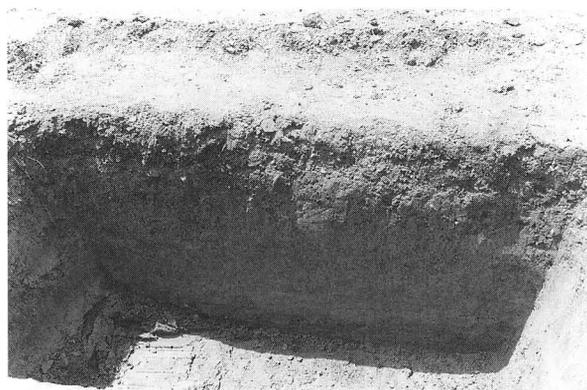
## 2002-07地点（東豊中町2丁目7-26）

当該地は遺跡の中央よりやや東に位置し、JR阪和線より100m西の地点である。当該地で鉄筋コンクリート造3階建て個人住宅の建設が予定された。当初、基礎掘削は、現地表面から30cmとなっていたが、その後、地盤改良が行われることとなったため、着工に先立ち調査を実施した。

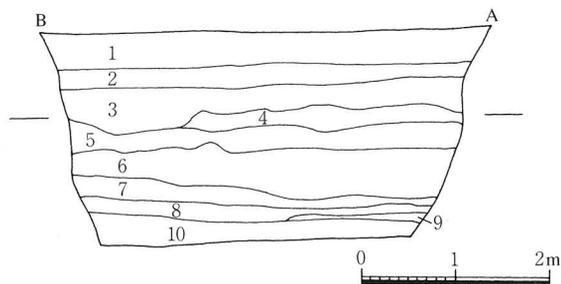
敷地のほぼ中央に長さ2.4m、幅1.2mのトレンチを設定し、重機で深さ1.15mまで掘削を行った。調査区の層序は、上層より1. 現地表土、2. 茶色砂で直径5～10cmの円礫を多数含む、3. 2層と同じく茶色砂であるが、円礫を含まない、4. 茶色シルト、5. 黄茶色シルト、6. 灰色砂、7. 青灰色微砂、8. 灰色シルト、9. 黄灰色砂、10. 灰色粘質土も至る。10層は、粘性の非常に強い層で地山と思われる層である。1層は、瓦などの廃材を含む層であるが、2層は、円礫に混じって数点の土師器、須恵器などを若干含む層である。



第16図 2002-07地点 トレンチ写真



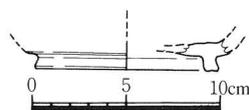
第17図 2002-07地点 南壁断面写真



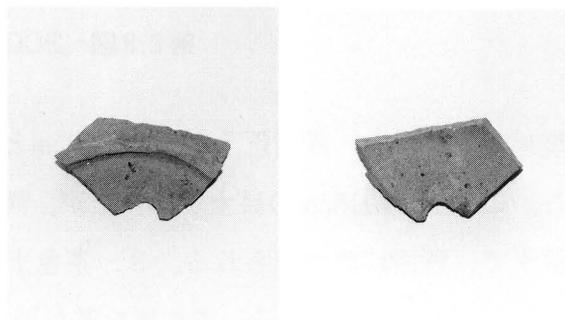
### 層位名

1. 現地表土（瓦など廃材を含む）
2. 茶色砂（直径5～10cmの円礫を多数含む 土師器、須恵器の小破片を若干含む）
3. 茶色砂
4. 茶色シルト
5. 黄茶色シルト
6. 灰色砂
7. 青灰色微砂
8. 灰色シルト
9. 黄灰色砂
10. 灰色粘質土（粘性が非常に強い）

第18図 2002-07地点 南壁断面図



第19図 2002-07地点 出土遺物実測図



第20図 2002-07地点 出土遺物写真

図19は須恵器坏である。復元底径10cm。図示し得るのはこれ1点のみである。付近一帯は、南北方向の砂礫層が幅広く見られる地域であるが、当該地もその一部であると思われる。遺構は確認できなかったので、写真撮影、断面図作成を行い、調査を終了した。

## 2002-10地点（豊中町3丁目4-8）

当該地は、国道26号線よりやや西側に位置し、周辺の既往の調査では、中世の掘立柱建物跡、井戸などが見つかっている地域である。鉄筋コンクリート造2階建て授産施設の建設が予定されたため、工事に先立って調査を実施した。

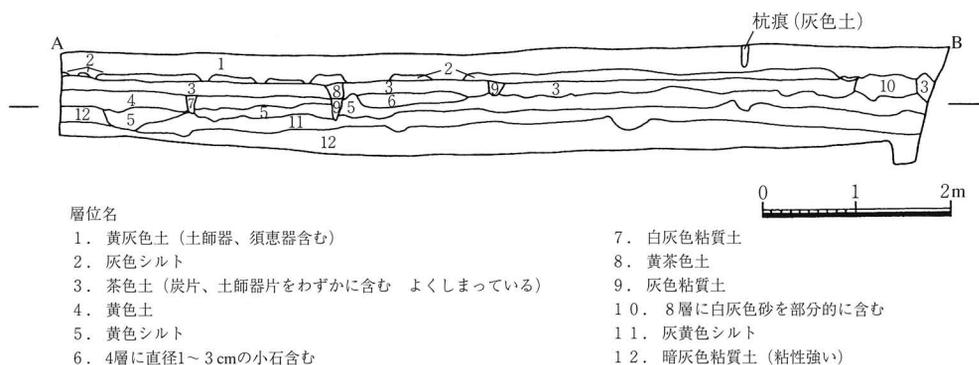
敷地北側の長辺に沿って、幅1.0m、長さ9.5mのトレンチを設定し、重機で深さ1~1.2mまで掘削を行った。



第21図 2002-10地点 トレンチ写真



第22図 2002-10地点 南壁断面写真



第23図 2002-10地点 南壁断面図

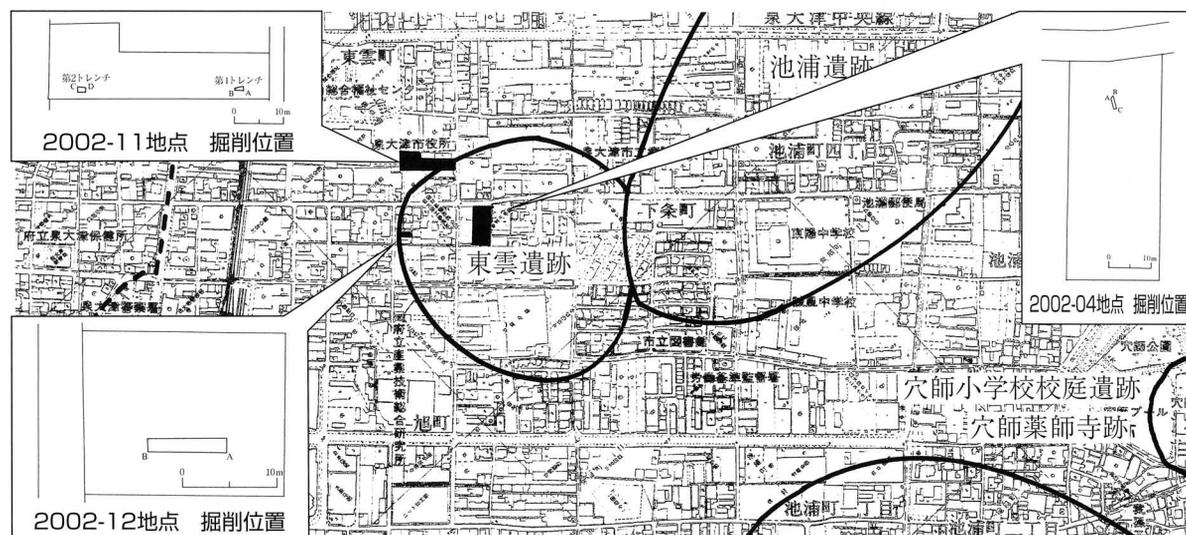
現地表土は、1. 黄灰色土で、20~30cmと厚く、盛土と思われる。土師器、須恵器の小破片を含む。この上に約15cmの耕土があったが、調査前にすきとられたようである。2. 灰色シルトは旧耕土で、断面に畝がみられる。3. 茶色土は包含層で、炭化物の破片、土師器片をわずかに含む、よくしまった層である。この層を基盤層として、ピット状の遺構が2箇所みられる。1つは、径20cm、深さ40cmで、埋土上部は、8. 黄茶色土で下部は、9. 灰色粘質土。もう一つは径15cm、

深さ14cmで、埋土は9. 灰色粘質土。いずれも遺物は含まれていない。3層以下、シルト層及び砂層が堆積する。12層は暗灰色粘質土で地山である。粘性が強い。

ピット状の遺構が断面で確認できたが、遺物の出土はほとんど無く、断面図作成と写真撮影を行い、調査を終了した。

### 3. 東雲遺跡

東雲遺跡はその中心部が南海本線泉大津駅の東約400mの地点付近に位置する。昭和52年の調査で古墳時代前期の竪穴住居址・井戸・溝や中世の掘立柱穴等の遺構が検出されたが、その後の調査では特筆すべき遺構の検出はみられない。遺跡地内は例年届出件数も少ないため、調査機会の少ない遺跡であるが、今年度は工場解体後の分譲住宅建設による届出があり、個人住宅建設を含め、工事に先立ち確認調査3件を実施した。



第24図 東雲遺跡 調査区位置図 (1:10,000)

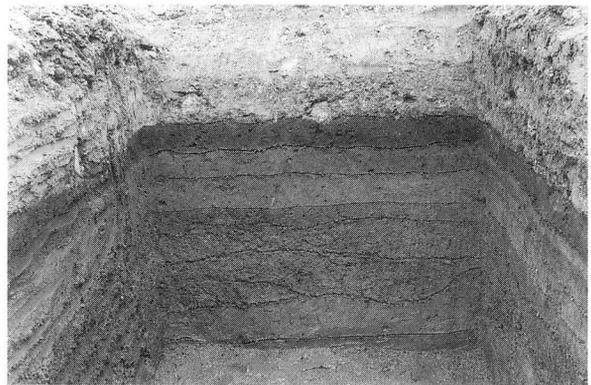
## 2002-04地点（東雲町77-1、77-3、里道、水路）

遺跡の中心部よりやや西に位置する。分譲住宅建設が予定され、それに先立つ宅地造成に伴い、位置指定道路が建設されることとなったため、工事に先立ち調査を実施した。敷地の北部分中央に、幅1.2m、長さ3.4mのトレンチを設定し、重機で深さ1.5mまで掘削を行った。

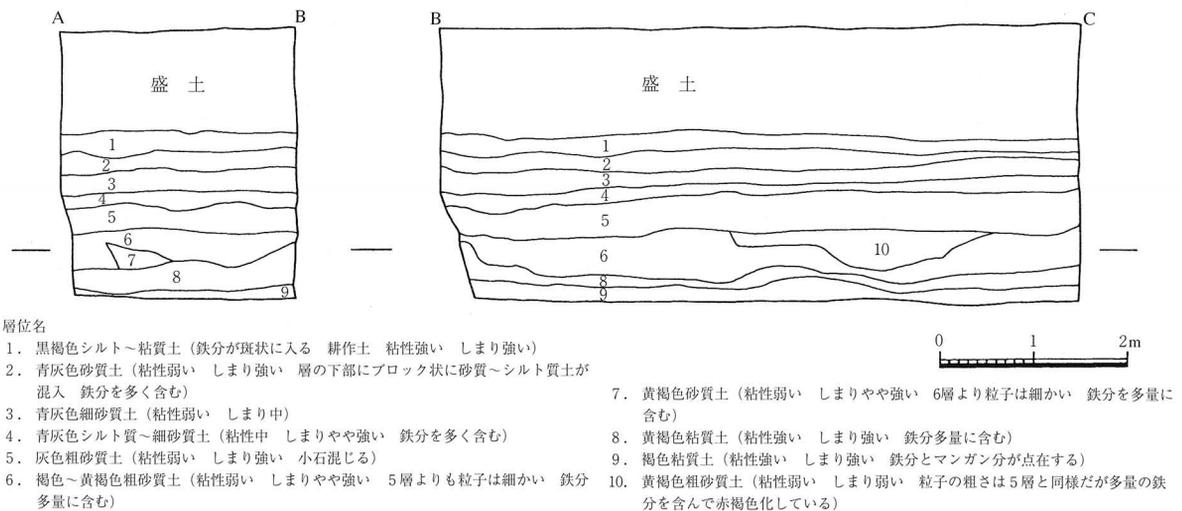
現地表土は盛土で約60cm堆積。以下、1. 黒褐色シルト～粘質土、2. 青灰色砂質土、3. 青灰色細砂質土、4. 青灰色シルト質～細砂質土、5. 灰色粗砂質土まで、ほぼ水平の堆積がみられる。6. 褐色～黄褐色粗砂質土には、7. 黄褐色砂質土や、10. 黄褐色粗砂質土を部分的に含む。以下、8. 黄褐色粘質土、9. 褐色粘質土に至る。



第25図 2002-04地点 トレンチ写真



第26図 2002-04地点 北壁断面写真



第27図 2002-04地点 トレンチ断面図

1層は粘性、しまりともに強く、鉄分が斑状に入る。遺物は含まれていないが、炭が少量認められる。近世の耕作土と思われる。2層は、粘性は弱く、しまりが強い。層の下部にブロック状に砂質シルト質土が混入。鉄分を多く含む。3層は粘性が弱い。4層は、しまりはやや強く鉄分

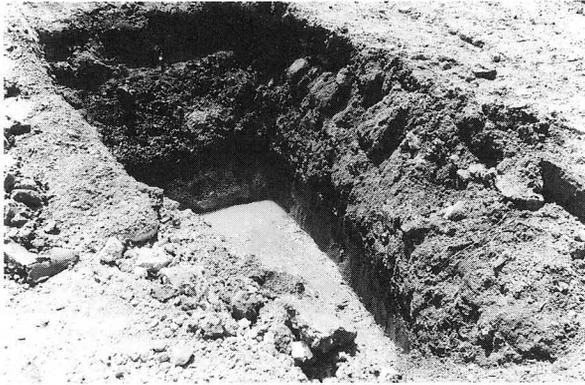
を多く含む。土師器口縁部が1片出土。層面上にあり、混入とみられる。5層は粘性弱く、しまりが強い。小石が混じる。6層は粘性が弱くしまりはやや強い。5層よりも粒子は細かく、鉄分を多量に含む。6層中にみられる7層は粘性弱く、しまりがやや強い。6層より粒子は細かく鉄分を多量に含む。同じく10層は、粘性、しまりともに弱く、粒子の粗さは5層と同様であるが、多量に鉄分を含んで、赤褐色化。8層は粘性、しまりともに強く、鉄分を多量に含む。9層も8層と同様で、鉄分とマンガン分が点在する。遺物は4層中の1点のみであったが、図示し得ない。8、9層はこのあたり一帯でみられる粘質土層で、9層はかなりの厚みを持つと思われる。大量の水の移動で5～7、10層が形成。その後、静かな水流のもとで、2～4層が形成されたと思われる。遺構は認められない。写真撮影、図面を作成し、調査を終了した。

## 2002-11地点(東雲町89-2、89-4)

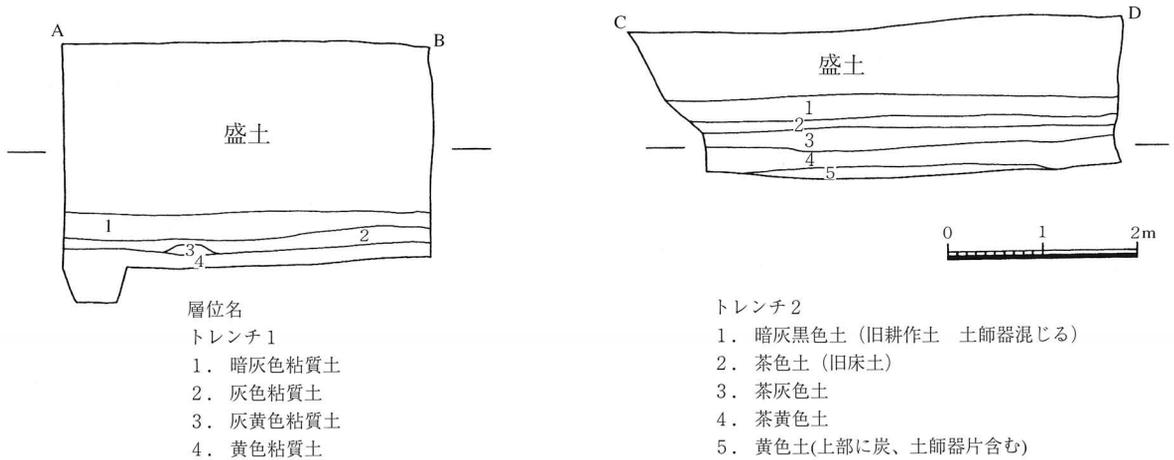
遺跡の北端に位置し、敷地西端の一部が、包蔵地に含まれる。工場と居宅であったが、解体し分譲住宅が建設されることとなったため、工事に先立ち調査を実施した。

敷地南側の長辺部を位置指定道路とする計画であったため、その部分に2箇所トレンチを設定した。東をトレンチ1、西をトレンチ2とする。トレンチ1は、2.0m×1.96mの規模で、深さは約1.2～1.4m、トレンチ2は、2.0m×2.66mの規模で、深さは約0.8m。それぞれ重機で掘削を行い、壁面、平面の観察を行った。

トレンチ1の層序は、0.9m盛土が堆積し、その下に1. 暗灰色粘質土、2. 灰色粘質土、この層中に3. 灰黄色粘質土が部分的にみられ、4. 黄色粘質土に至る。トレンチ2は、1よりも盛土は薄く、以下、1. 旧耕作土の暗灰黒色土、2. 旧床土の茶色土、3. 茶灰色土、4. 茶黄色土、5. 黄色土に至る。現況地盤は東から西へゆるやかに低くなり、盛土の厚さにも大きな差があるが、盛土除去後のトレンチ1、2間での土層レベルは大きな違いはなく、ほぼ水平な堆積である。トレンチ1の1、2層は、トレンチ2の1層に相当する耕作土。トレンチ2では、1層に土師器片が混じる。4、5層は遺物包含層で、5層上部には、炭、土師器片が含まれる。5層上の平面でピット状の土の変化が2箇所みられたが、断ち割ったところ遺構ではなかった。トレンチ1では、遺物は全く認められなかった。写真撮影及び断面図を作成し、調査を終了した。



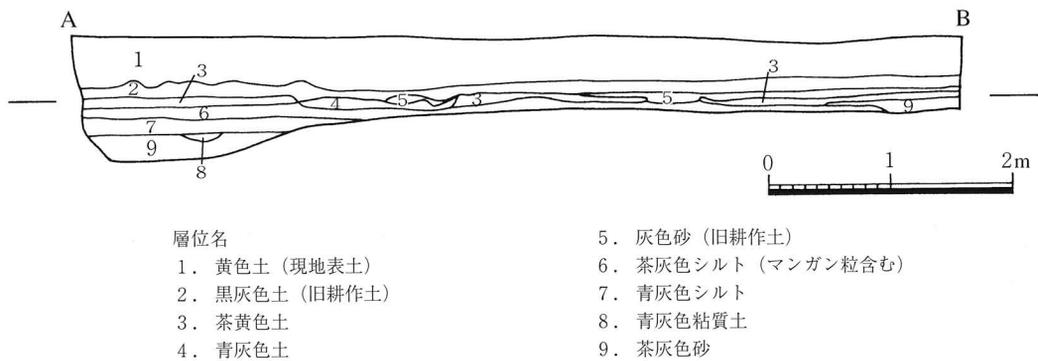
第28図 2002-11地点 トレンチ写真 (左; トレンチ1、右; トレンチ2)



第29図 2002-11地点 トレンチ断面図 (左; トレンチ1南壁、右; トレンチ2北壁)

## 2002-12地点 (東雲町73-1の一部)

遺跡の西端位置する。鉄骨造2階建て個人住宅建設が予定されたため、工事に先立ち、調査を実施した。敷地南辺に沿って、幅1.5m、長さ7.3mのトレンチを設定し、重機で深さ約1mまで掘削を行う。

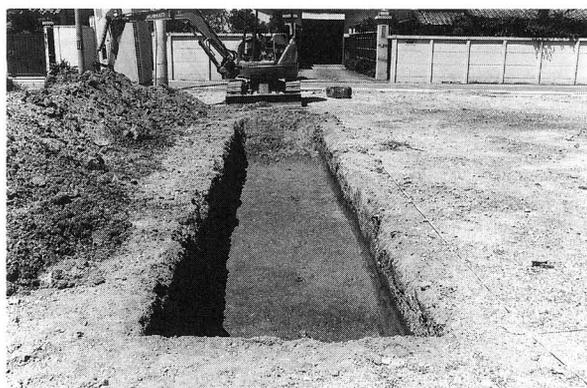


第30図 2002-12地点 トレンチ南壁断面図

1. 黄色土は現地表土で、駐車場として利用時の盛土。2. 黒灰色土は旧耕土で、2層下にも、5. 灰色砂の耕作土がみられるが、場所により、3. 茶黄色土、4. 青灰色土がみられる。3、4層は土師器片を含む。6. 茶灰色シルトはマンガン粒を含み、ほぼトレンチ全域にわたりみられる。7. 青灰色シルト、8. 青灰色粘質土、9. 茶色砂に至る。6層は、中世～近世頃の耕作面と思われる。直径1～2cmの植物痕跡が平面状に多数認められる。また、トレンチ西部で、トレンチに直行して、幅約15cmの素掘り小溝を検出した。すき溝であろう。6層から土師器片、7層の上部から須恵器片をそれぞれ検出したが、小片のため図示し得ない。また、トレンチ長辺の中心線上に並ぶ6本の木杭を検出した。80cm間隔で打ち込まれていたようである。最終検出面よりも深く打ち込まれているが、どの耕作面に伴うものかは判然としない。6層以降の耕作面である5層、2層まで、盛土がなされた形跡は認められず、当該地は中世以降、近年まで続く耕作地であったと思われる。9層から湧水がある。

このほかには、遺構、遺物も認められないが、近世以前の耕作面を確認できたことは今後の周辺調査時の参考になろう。

写真撮影、断面、平面の図面を作成し、調査を終了した。



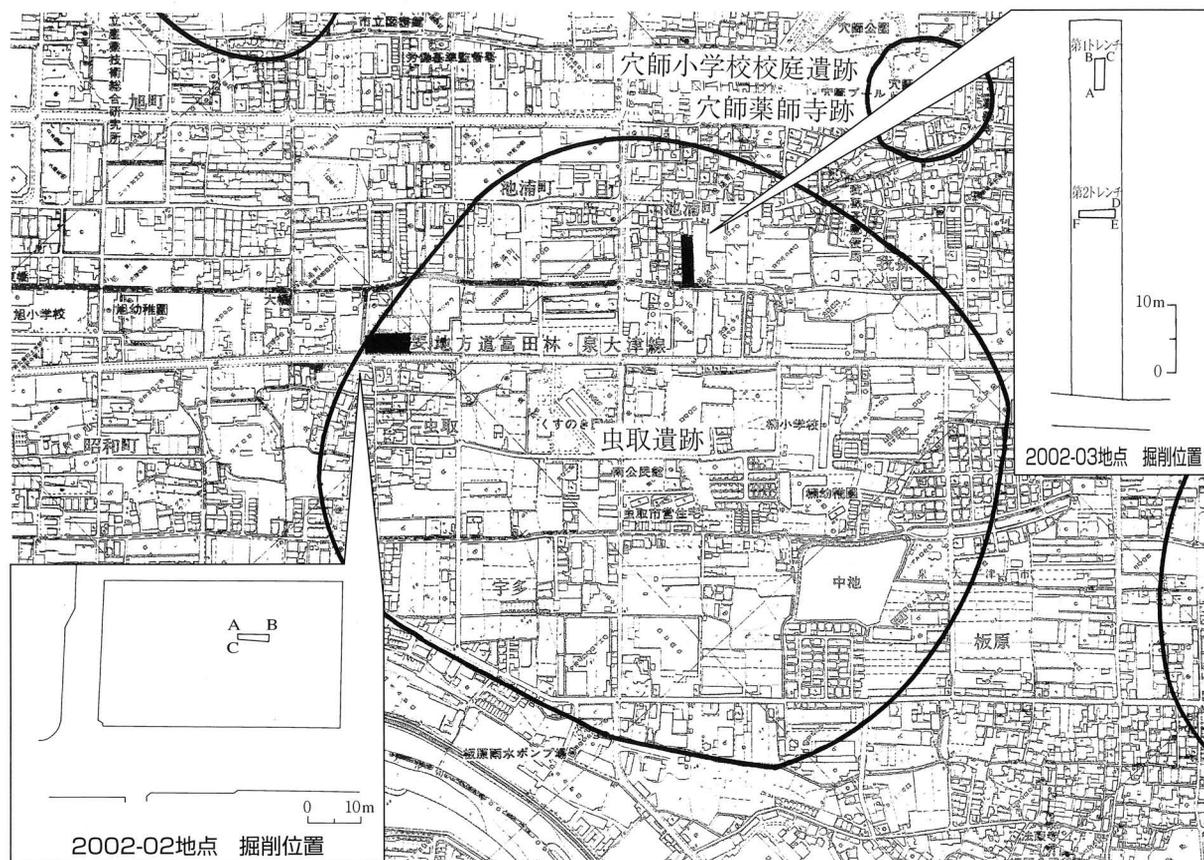
第31図 2002-12地点 トレンチ写真



第32図 2002-12地点 平面写真

## 4. 虫取遺跡

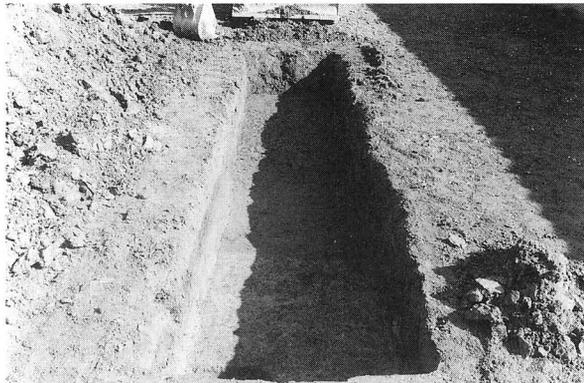
虫取遺跡は池上曾根遺跡に次ぐ面積を有する弥生時代の遺跡である。近年、宅地開発の増加が進む地域である。耕作地が多く残り、これまで顕著な遺構が認められない場合が多かったが、昨年度の調査で、羽釜・瓦器椀等を伴った中世井戸や溝等の中世居館を思わせる遺構を検出し、調査の進展により新たな成果が期待できる遺跡である。今年度は個人住宅及び鉄骨2階建て工場の建設に先立ち、2件の確認調査を実施した。



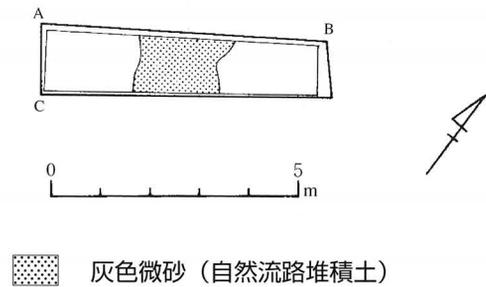
第33図 虫取遺跡 調査区位置図 (1:10,000)

## 2002-02地点 (虫取町1丁目88-2、101-1)

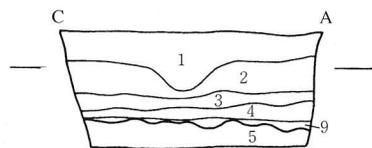
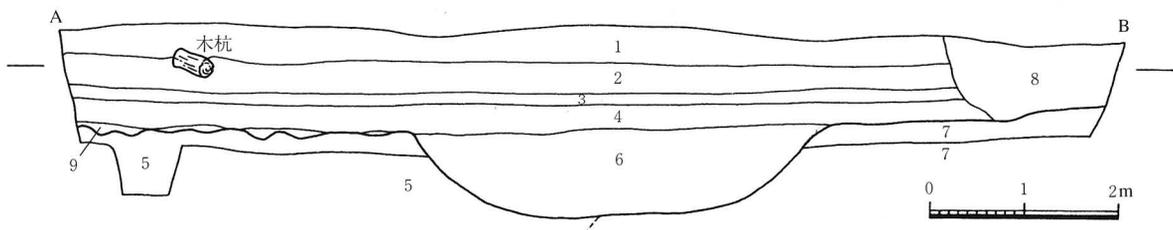
遺跡の西端に位置する。木造2階建て個人住宅建設が予定されたため、工事に先立ち調査を実施した。敷地の中央やや東よりに、幅1.4m、長さ5.7mのトレンチを設定し、重機で約1mまで掘削を行った。1. は盛土で、須恵器片が混入する。2. は、暗灰色砂質土で、旧耕作土。3. は



第34図 2002-02地点 トレンチ写真



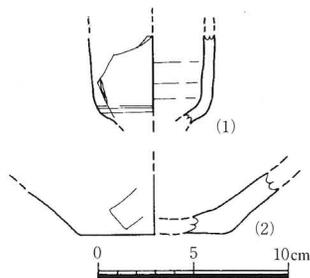
第35図 2002-02地点 平面図



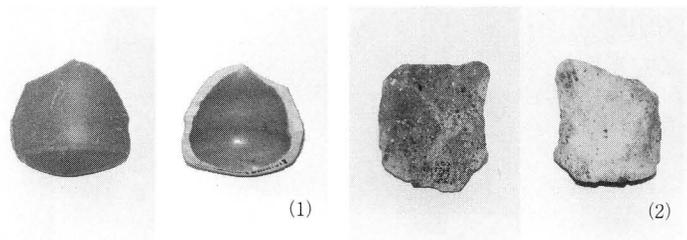
### 層位名

1. 盛土
2. 暗灰色砂質土 (旧耕作土)
3. 明灰褐色砂質土 (床土 土師器、瓦質土器含む)
4. 明灰色砂質土 (中世の耕作土 土師器片含む)
5. 黄灰色粘質土 (地山)
6. 灰色微砂 (自然流路堆積土 弥生土器底部含む)
7. 灰褐色砂質土 (マンガン塊を多く含む 大阪層群)
8. 攪乱
9. 明灰色粘質土 (中世の素掘り小溝埋土 土師器、瓦質土器、青磁含む)

第36図 2002-02地点 トレンチ断面図



第37図 2002-02地点  
出土遺物実測図



第38図 2002-02地点 出土遺物写真

それに伴う床土で、明灰褐色砂質土。土師器、瓦質土器を含む。4. は、明灰色砂質土で、土師器片を含む。中世の耕作土であろう。トレンチの西部では、4層下に、9. 明灰色粘質土がみられるが、これは、4層に伴う耕作痕で、素掘小溝の埋土である。ここから、土師器、瓦質土器、青磁片が出土。9層下は5. 黄灰色粘質土となり、地山である。トレンチ中央では、4層直下に自然流路の堆積土である6. 灰色微砂が幅約2mにわたりみられる。6層中より、弥生土器底部1点のみが出土した。6層下は、5層の地山であるが、6層中央あたりより、東では、7. 灰褐色粘質土が広がる。7層はマンガン塊を多く含み、大阪層群であろう。

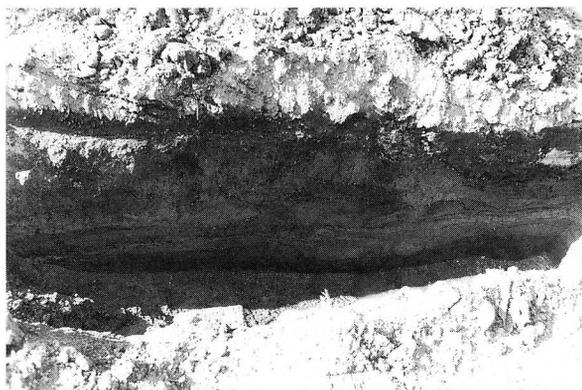
(1)は、青磁壺の一部である。外面は灰色がかった暗緑色で、朝顔状に開く口縁部と同様に広がる脚部を持つ。出土部分は、それらを繋ぐ受け部の下部と思われる。外面には、縦に棒状の飾りの貼り付け痕がみられる。復元高は20cm前後で、明代の龍泉窯系のものであろう。(2)は、弥生土器で壺底部。復元底径7.8cm。胎土に、0.1~0.5cm程度の白色石を含む。外面に板状のナデがみられる。内面は摩滅が激しい。

4層及び9層の形成時期は、概ね14世紀以降と思われる。6層の流路は、これら形成以前のものであろう。当遺跡では、昨年度調査でも12~13世紀後半の遺構が検出され、遺跡の北部では、中世の遺構の存在がはじめて確認できたところである。今年度の調査でも、引き続き中世の遺構が認められたことは、当該地付近の条里制を考える上で意義深い。

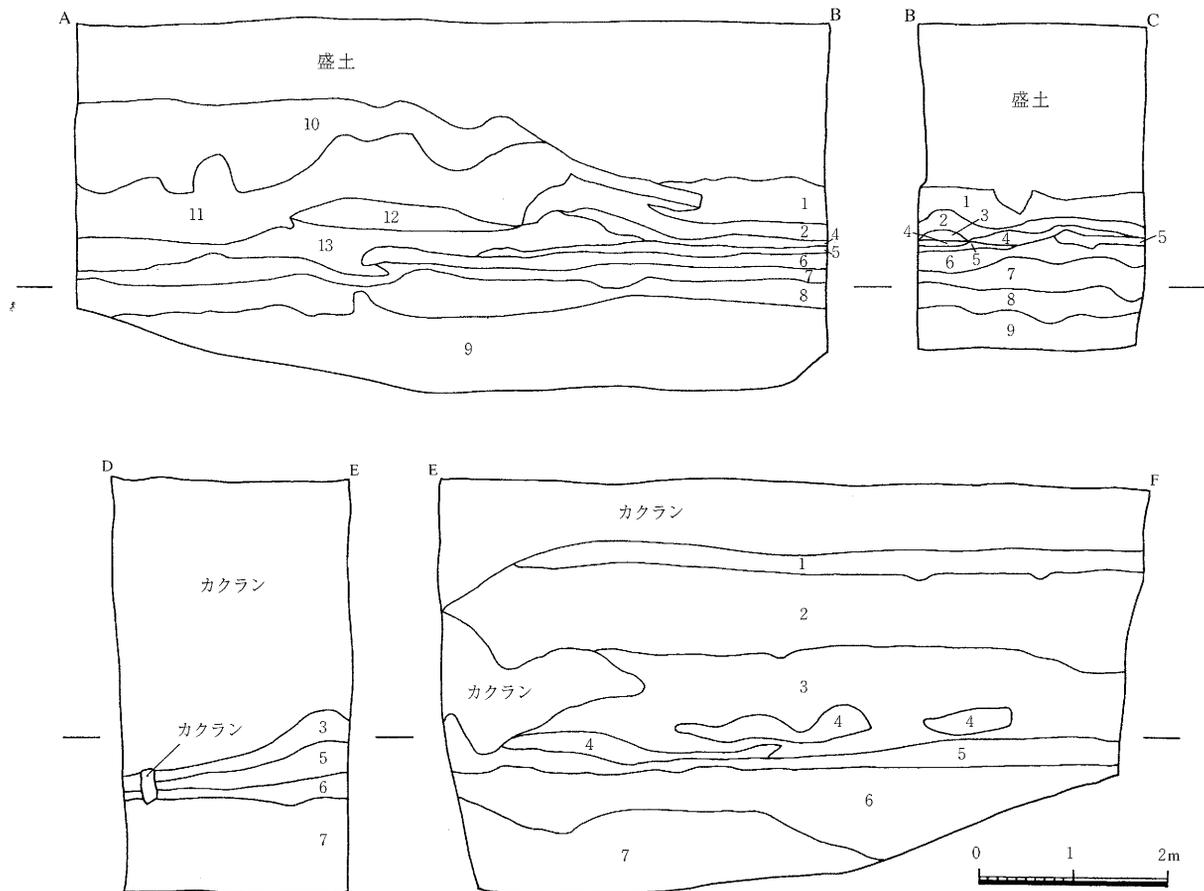
## 2002-03地点 (池浦町2丁目492-2)

遺跡中央よりやや東に位置する。昨年度の調査で、中世の遺構を確認した地点に近い。鉄骨造2階建て工場の建設が予定されたため、工事に先立ち調査を実施した。

敷地は南北に細長く、その北端に幅1.2m、長さ4.0mのトレンチを設定し、トレンチ1とした。また、中央部に敷地と直行するように、幅1.3m、長さ3.8mのトレンチを設定し、トレンチ2とした。いずれも2.0~2.2mまで重機で掘削を行った。



第39図 2002-03地点 断面写真 (左; トレンチ1西壁、右; トレンチ2東壁)



層位名

トレンチ1

1. 黒褐色粘質土 (粘性強い しまり強い)
2. 青灰色細砂 (粘性弱い しまり中 ブロック状に粘質土含む)
3. 灰色粗砂 (粘性弱い しまり弱い レンズ状に入る)
4. 青灰色砂質土 (粘性弱い しまりやや弱い 2層とは粗さの違いのみ)
5. 青灰色砂質土 (粘性弱い しまり弱い 黄褐色の粘質土が混じる 土中に鉄分を多く含んでいるため黄褐色化している)
6. 青灰褐色砂質シルト (粘性弱い しまりやや強い 斑状に鉄分を含む)
7. 灰褐色粘質～シルト質土 (粘性強い しまり強い 6層よりもさらに多くの鉄分を含む)
8. 灰褐色粘質土 (粘性強い しまり強い)
9. 黒褐色粘質土 (粘性強い しまり強い)
10. 灰褐色シルト～砂質土 (粘性やや弱い しまり強い)
11. 灰褐色砂質土 (粘性弱い しまりやや弱い 多少鉄分を含む)
12. 灰色粗砂土 (粘性弱い しまり弱い レンズ状に入る)
13. 灰色砂質土 (粘性弱い しまり弱い 鉄分を多少含み黄褐色土を帯状にもつ)

トレンチ2

1. 黄褐色粘質土～シルト (旧床土 しまり強い 粘性やや強い)
2. 暗黒褐色粘土質シルト (小礫混じる しまり強い 粘性やや強い 土師器、灰少量含む 耕作土か?)
3. 灰褐色砂質土 (小石混じる しまり強い 粘性弱い 多少鉄分含む)
4. 黒褐色粗砂～小石 (レンズ状に入る しまり中 粘性弱い)
5. 灰褐色砂質土 (粘性弱い しまり中)
6. 灰褐色細砂 (粘性弱い しまりやや強い 鉄分を多く含み筋状に入る トレンチ1の7層に相当か?)
7. 灰色シルト質～細砂 (粘性強い しまりやや強い 鉄分を含む)

第40図 2002-03地点 断面図 (上; トレンチ1、下; トレンチ2)

トレンチ1の北壁は約90cmの盛土がある。基本層序は、1. 黒褐色粘質土、2. 青灰色砂、レンズ状に入る3. 灰色粗砂、4. 青灰色砂質土、5. 黄褐色の粘質土が混じる青灰色砂質土、6. 青灰褐色砂質シルト、7. 灰褐色粘質～シルト質、8. 灰褐色粘質土、9. 黒褐色粘質土。1層は、粘性、しまりともに強いが、2～5層は、粘性が弱く、しまりも中～弱い。5層の黄褐色化は、鉄分を多く含んでいるためと思われる。これらの層は水成層で、ほぼ同じ成立と思われる。6

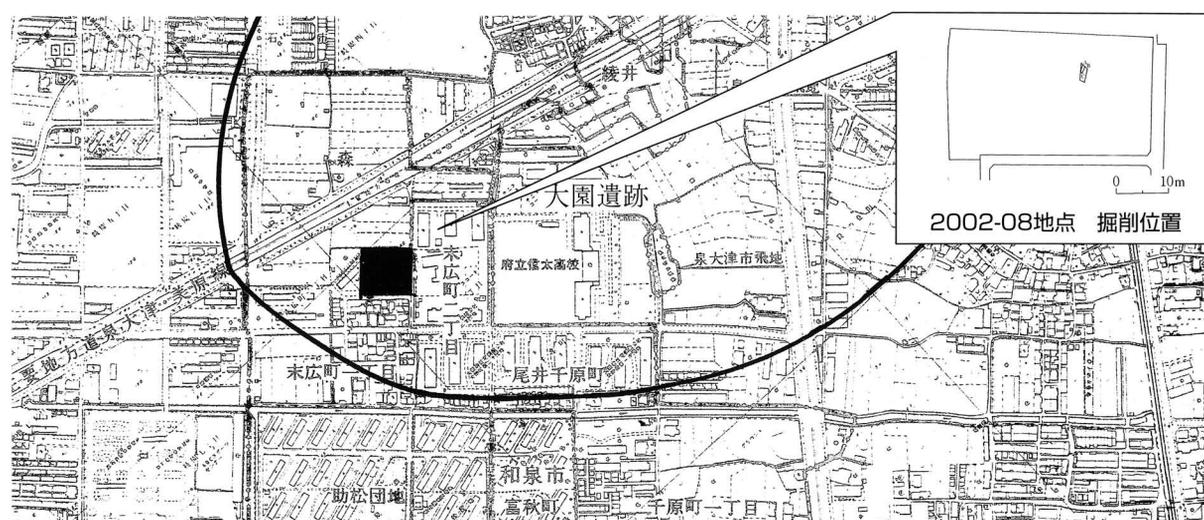
層は粘性が弱く、しまりはやや強い。斑状に鉄分を含む。7～9層は、粘性、しまりともに強く、7層は6層よりもさらに多くに鉄分を含む。8、9層は、掘削時は更に黒くグライ化していたものと思われ、水の動きの少ない泥状の池・沼であったと可能性がある。西壁の盛土は、南に行くほど薄くなり、約40cmの箇所もある。1～6層は北から約1/3の地点でなくなり、10. 灰褐色シルト～砂質、11. 灰褐色砂質、レンズ状に入る12. 灰色粗砂土、13. 灰色粘質土となる。10層は、時期不明であるが耕作土である。11～13層は、粘性、しまりともにやや弱い。以下7層からは、北壁と同様である。

トレンチ2は、現況地盤から40～160cmまで攪乱があり、南壁では、その下に旧床土1. 黄褐色粘質～シルト、2. 暗黒褐色粘質シルトがみられる。これらの層は、東壁ではみられない。以下、3. 灰褐色砂質土、3層中にレンズ状に入る4. 黒褐色粗砂、5. 灰褐色砂質土、6. 灰褐色細砂、7. 灰色シルト～細砂に至る。2層は包含層で、土師器片と少量の灰がみられる。耕作土の可能性もある。6層は、トレンチ1の7層に相当すると思われるが、8. 9層に相当する層は、認められない。

遺物は、トレンチ2から土師器を少量検出したが、図示し得るものはない。写真撮影、図面作製を行い、調査を終了した。

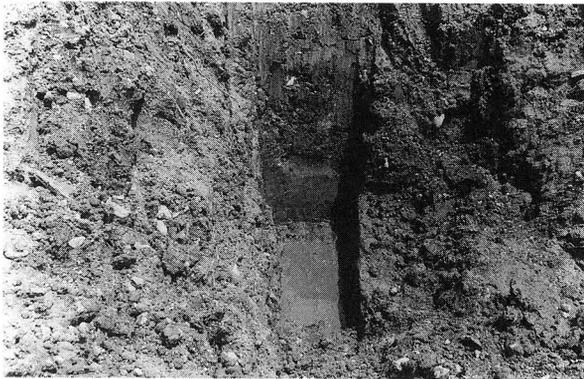
## 5. 大園遺跡

大園遺跡は高石市西取石、綾園、和泉市葛の葉町、泉大津市綾井にまたがり、旧石器時代から中世にかけての遺物・遺構が検出する複合遺跡である。今年度は共同住宅建設工事に先立ち1件の確認調査を実施した。

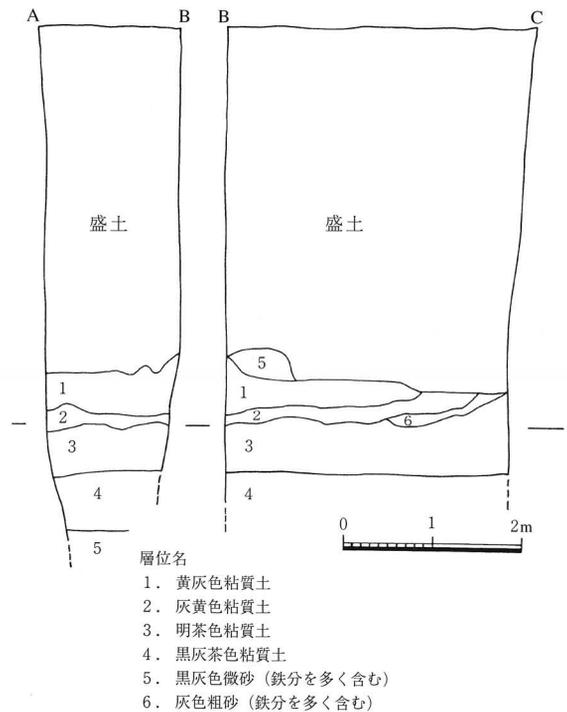


第41図 大園遺跡 調査区位置図 (1:10,000)

2002-08点 (末広町1丁目326、328-2の一部ほか)



第42図 2002-08地点 トレンチ断面写真

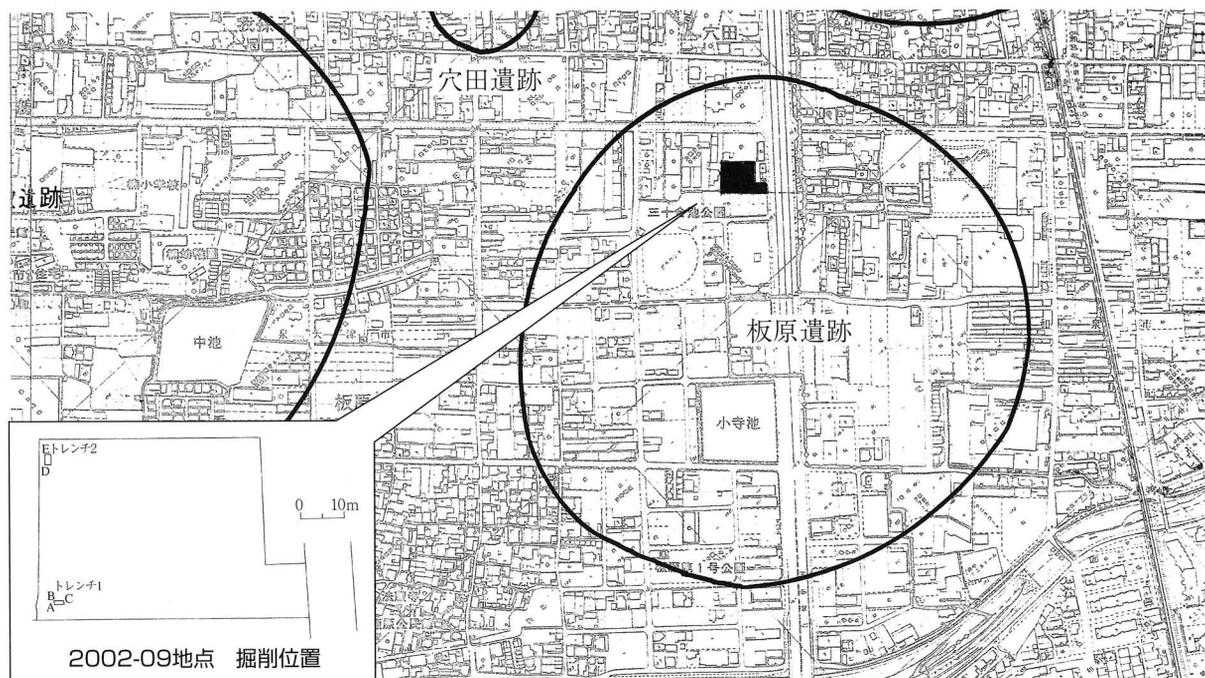


第43図 2002-08地点 断面図

当該地は遺跡の西端に位置し、一部和泉市地番も含まれる。2棟の4階建て社宅があったが、鉄筋コンクリート造11階建て共同住宅100戸が建設されることとなったため、工事に先立ち調査を実施した。調査は、社宅解体後に行った。

現況は、社宅の基礎コンクリートなどが地表面にも散乱している。敷地の東隅に、幅0.8m、長さ2mのトレンチを設定し重機で掘削を行ったが、2mを超える盛土であった。社宅建設時の盛土と解体による基礎コンクリートが混じったものである。以下、1. 黄灰色粘質土、2. 鉄分を多く含む灰黄色粘質土、3. 暗茶灰色粘質土、4. 黒灰茶色粘質土、5. 黒灰色微砂に至る。1層上部に部分的に灰色粘質土がみられるが旧耕作土に相当し、この付近は、建設時に大きく削平されたと思われる。また、1～5層までの境が不明瞭である。4層からは湧水がみられる。遺物は、1層直上で摩滅が非常に激しい土師器がごくわずかにみられたが、遺構は検出できなかった。写真撮影及び図面を作成し調査を終了した。

## 6. 板原遺跡



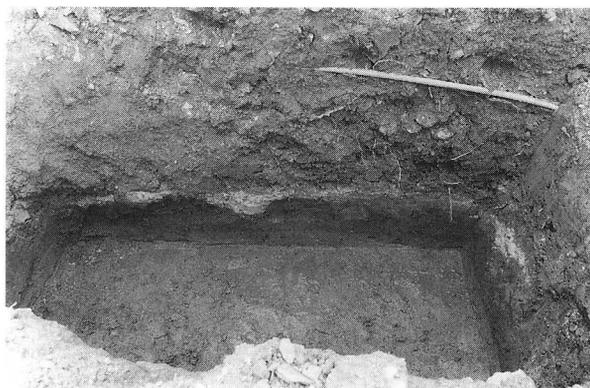
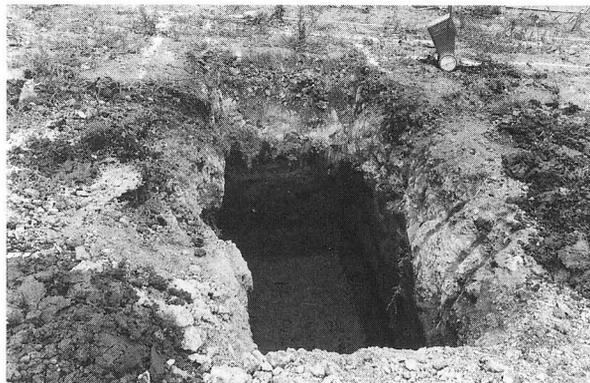
第44図 板原遺跡 調査区位置図 (1:10,000)

板原遺跡は、本市板原を中心とし、東南部では和泉市肥子町にまたがる遺跡である。国道26号線の整備に伴う調査により縄文時代の流路や鎌倉時代の掘立柱跡などを検出している。その後の調査では明確な遺構の検出はみられなかったが、昨年度の調査で瓦器椀小片・羽釜小片の出土とともに、中世における耕作状況がうかがえる素掘小溝群が検出された。今年度は、1件の確認調査を実施した。

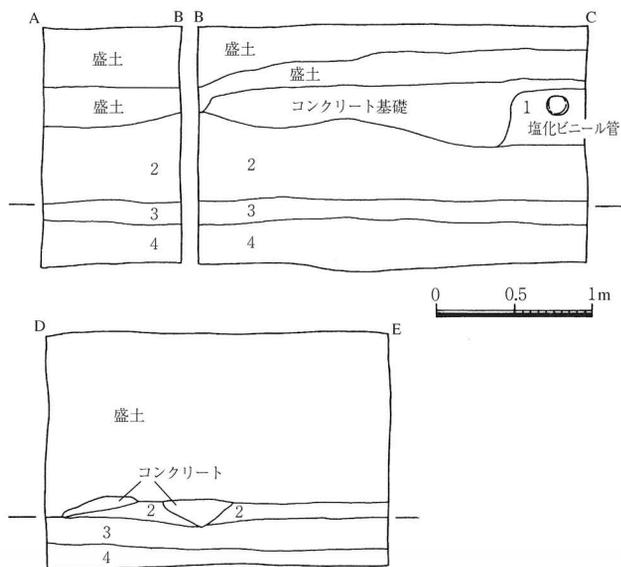
### 2002-09点 (穴田78-1、宮184-1)

遺跡の中央部からやや東に位置する。毛織物工場であったが、鉄骨造2階建て貸営業所が建設されることとなったため、工事に先立って調査を実施した。敷地の西端と東端に2本のトレンチを設定し、西端をトレンチ1、東端をトレンチ2とし、重機で掘削を行った。トレンチ1は、盛土が約40cmあり、上から2層目盛土は、工場建設時の地盤改良土で乳白色の軽状の土。その下にコンクリート基礎や配管がみられる。1層は配管埋設時の土である。トレンチ2でも、1.1mの盛土がみられ、その下に一部、コンクリート基礎がある。以下の層位は両トレンチとも同じである。2. 緑灰色粘質土、3. 灰色粘質土。4. 緑灰色土で、2層は、黄色粘質土ブロックを含む。3層は、磁器、陶器片を含む。4層からは湧水が認められる。当該地は、隣接地の田よりも現況地盤が

高く、約90cmの盛土がある。国道26号線の側道にGLをあわせたためであろう。両トレンチ2層は近世の盛土で、3層は中世～近世の耕作土と思われる。遺構は認められない。写真撮影と図面を作成して、調査を終了した。



第45図 2002-09地点 トレンチ写真  
(上; トレンチ1、下; トレンチ2)



- トレンチ1
1. 黄色土 (盛土)
  2. 緑灰色粘質土 黄色粘質土ブロック含む
  3. 灰色粘質土
  4. 緑灰色土 (湧水あり)

第46図 2002-09地点 断面図  
(上; トレンチ1、下; トレンチ2)

# 発掘調査抄録 その1

ふりがな	いずみおおつしまいぞうぶんかざいはつくつちょうさがいほう							
書名	泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報							
副書名								
巻次	21							
シリーズ名	泉大津市文化財調査報告							
シリーズ番号	35							
編著者名	虎間麻実							
編集機関	泉大津市教育委員会							
所在地	〒595-8686 大阪府泉大津市東雲町9番12号							
発行年月日	西暦 2003年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いけがみそね 池上曾根	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 もりちょう 森町1丁目 99-1の一部、99-2	272060		34度 30分 27秒	135度 25分 44秒	20020403	10.08	分譲住宅建設に伴う位置指定道路部分事前調査
とよなか 豊中	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 とよなかちょう 豊中町2丁目 408-1の一部、407-3、 411-2、412-3里道敷	272060		34度 29分 31秒	135度 25分 32秒	20020311	9.56	木造2階建分譲住宅建設に伴う事前調査
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 ひがしとよなかちょう 東豊中町 7-16	272060		34度 29分 19秒	135度 25分 42秒	20020521	2.4	鉄骨コンクリート造3階建個人住宅建設に伴う事前調査
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 とよなかちょう 豊中町3丁目 4-8	272060		34度 29分 30秒	135度 25分 35秒	20020821	20.00	鉄筋コンクリート造2階建て授産施設建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
いけがみそね 池上曾根	集 落	弥 生 古 奈 平 良 安	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			
とよなか 豊中	集 落	縄 文	遺構は検出されなかった		土師器皿 破片 瓦 器 皿 破片 土 師 器 破片			
		古 墳	遺構は検出されなかった		須恵器 破片			
		平 安	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			
		中 世	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			

## 発掘調査抄録 その2

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しのめ 東雲	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 しのめちよう 東雲町77-1、77-3、 里道、水路	272060		34度 29分 58秒	135度 24分 48秒	20020227	4.28	分譲住宅建設に伴う位置指定道路部分事前調査
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 しのめちよう 東雲町 89-2、89-4	272060		34度 30分 8秒	135度 24分 50秒	20020830	9.24	分譲住宅建設に伴う位置指定道路部分事前調査
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 しのめちよう 東雲町 73-1の一部	272060		34度 30分 00秒	135度 24分 43秒	20020511	10.16	鉄骨造2階建個人住宅建設に伴う事前調査
むしとり 虫取	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 むしとりちよう 虫取町1丁目 88-2、101-1	272060		34度 29分 40秒	135度 24分 38秒	20020201	7.7	木造2階建個人住宅建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主 　　な 　　遺 　　構		主 　　な 　　遺 　　物		特 記 事 項	
しのめ 東雲	集 落	古 墳	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			
		中 世	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			
			素掘小溝		遺物は検出されなかった			
むしとり 虫取	集 落	弥生 古墳 中世	素掘小溝と自然流路		青磁破片 弥生土器破片			

## 発掘調査抄録 その3

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むしとり 虫取	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 いけうらちょう 池浦町2丁目 492-2	272060		34度 29分 32秒	135度 24分 56秒	20020220	9.8	鉄骨造2階建工場 建設に伴う事前調査
おおぞの 大園	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 すえひろちょう 末広町1丁目 326、328-2の一部	272060		34度 30分 40秒	135度 25分 58秒	20020604	1.36	鉄筋コンクリート 造11階建共同住宅 建設に伴う事前調査
いたばら 板原	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 あなだ 穴田78-1 みや 宮184-1	272060		34度 29分 06秒	135度 25分 16秒	20020717	4.23	鉄骨造2階建貸営 業所建設に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な 時代	主  な  遺  構		主  な  遺  物		特  記  事  項	
むしとり 虫取	集  落	弥  生 古  墳 中  世	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			
おおぞの 大園	集  落	旧石器 古  墳 中  世	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			
いたばら 板原	包含地 集  落	縄  文 古  墳 中  世	遺構は検出されなかった		土師器 須恵器	破  片 破  片		

泉大津市文化財調査報告35

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報21

2003年3月

発行 泉大津市教育委員会  
編集 生涯学習課  
泉大津市東雲町9番12号

印刷 大阪市大正区三軒家1-2-9  
株式会社 栄光堂印刷所

